

班総会議事録

昭和57年度 妊婦管理研究班議事録

「妊婦管理の改善による胎児障害防止に 関する研究」班総会

日時：昭和58年2月24日(木)

午前10時～午後6時35分

昭和58年2月25日(金)

午前9時～午後0時10分

場所：竹橋会館「白鳥の間」(24日)

「孔雀の間・東」(25日)

出席者：(敬称略，順不同)

- 主任研究者(班長)：鈴木雅洲
- 厚生省児童家庭局母子衛生課：尾崎明課長，関修一郎課長補佐
- 分担研究者(幹事，分科会長)：蜂屋祥一(慈恵医大産婦人科)，倉智敬一(阪大産婦人科)，沼崎義夫(国立仙台病院)，飯塚理八(慶応義塾大学産婦人科)
- 分担研究者(班員)：玉田太郎(自治医大産婦人科)，岡田弘二(京都府立医大産婦人科)，水野正彦(東大産婦人科)，遠山博(東大輸血部)，村田文也(都立築地産院)，森一郎(鹿児島大産婦人科)，福田透(信州大産婦人科)，北川照男(日大小児科)，関場香(岡山産婦人科)，五十嵐正雄(群馬大産婦人科)，斉藤幹(東京医歯大産婦人科)，馬場一雄(日大小児科)，吉野亀三郎(山梨県立衛生公害研究所)，大野虎之進(東京歯大産婦人科)，和久正良(帝京大泌尿器科)，松本慶蔵(長崎大熱研内科)，森崇英(徳島大産婦人科)，藤原篤(広島大産婦人科)，中山健太郎(東邦大小児科)，劉雪美(東北大産婦人科)
- 代理出席：菅原卓(北大産婦人科)，梶島勝一(久留

米大産婦人科)，柵木充明(名古屋大産婦人科)測勲(近畿大産婦人科)

- 事務担当責任者：矢嶋聡，古橋信晃(東北大産婦人科)
- 分科会事務担当責任者：佐藤信二，山内隆治(東北大産婦人科)，久慈直志(慈恵医大産婦人科)，青野敏博(阪大産婦人科)，田中明(国立仙台病院)，牧野恒久(慶応大学産婦人科)

議 事

- I. 班長挨拶(開会) 鈴木雅洲
- II. 厚生省児童家庭局母子衛生課長挨拶 尾崎 明
- III. 研究報告
 - (1) 母体感染症の胎児に与える影響とその対策，および臨床検査法の開発
座長：分科会長 沼崎義夫
 - A. ヘルペスウイルスに関する研究
• 吉野亀三郎 • 川名 尚
 - B. サイトメガロウイルスに関する研究
• 沼崎義夫
 - C. トキソプラズマ感染に関する研究
• 松本慶蔵
 - D. 分科会長挨拶
• 沼崎義夫
 - (2) 不妊症治療に関する研究
座長：分科会長 飯塚理八

- A. 異常卵管の形成術に関する研究
 - ・飯塚理八
- B. 人精子に関する研究
 - ・和久正良
- C. 生殖細胞の抗原性に関する研究
 - ・森 崇英
- D. 人工授精および不妊高年令婦人の治療後の妊娠と出生児研究
 - ・大野虎之進
- E. 分科会長挨拶
 - ・飯塚理八

(3) 我国における妊娠の実態調査と保健指導に関する研究

座長：分科会長 蜂屋祥一

- A. 後期妊娠中毒症に関する研究
 - ・福田 透 ・関場 香
- B. 妊婦の代謝異常
 - ① 先天代謝異常の妊婦
 - ・北川照男
 - ② 妊婦の糖代謝異常
 - ・蜂屋祥一
- C. 分科会長挨拶
 - ・蜂屋祥一

(4) 多胎妊娠に関する研究

座長：分科会長 倉智敬一

- A. 多胎妊娠の疫学的研究——ことに胎児・新生児・乳児予後および誘発排卵多胎妊娠の減少対策
 - ・倉智敬一 ・五十嵐正雄 ・斉藤 幹
- B. 多胎児の発育・成長に関する研究
 - ・馬場一雄

(午前中発表)

(5) 現代生活・現代社会構造・現代医療内容の妊娠、分娩、胎児に与える影響

座長：分科会長 鈴木雅洲

- A. 現代生活環境による異常児発生の疫学的研究
 - ① 肥満
 - ・岡田弘二
 - ② 核家族
 - ・水野正彦
 - ③ 勤労婦人
 - ・一戸喜兵衛(菅原卓代理報告)
 - ④ 旅行
 - ・藤原 篤
 - ⑤ カフェイン
 - ・劉 雪美
 - ⑥ 冷房
 - ・友田 豊(柵木充明代理報告)
 - ⑦ 交通機関利用
 - ・加藤 俊(枕島勝一代理報告)
 - ⑧ ビル居住
 - ・野田起一郎(湧勲代理報告)
- B. 思春期保健衛生

- ① 10代婦人の妊娠
 - ・玉田太郎
- ② 思春期医学のカバーすべき領域の設定に関する研究
 - ・玉田太郎

C. 妊産婦輸血・新生児交換輸血の影響

- ① 妊産婦輸血の母子に与える影響
 - ・遠山 博
- ② 交換輸血・輸血を受けた児の長期予後
 - ・村田文也

D. 幼若乳児にみられるビタミンK欠乏性出血素因に関する研究

- ・中山健太郎(月本一郎代理報告)

E. 21世紀において予測される家庭像と、それに影響を与えると考えられる諸要因についての研究

- ・水野正彦

F. 妊娠期の栄養の実態と保健指導

- ・森 一郎

G. 妊娠週数ならびに出生体重からみた早期新生児死亡率・新生児死亡率・乳児死亡率ならびにその対策に関する研究

- ・鈴木雅洲(佐藤章代理報告)

IV 評価委員挨拶

- ・沢崎千秋

- ・松本清一

V 班長挨拶(班総会閉会)

- ・鈴木雅洲

第1回幹事会ならびに評価委員会

日時：昭和57年6月10日(木)

午後5時～7時

会場：竹橋会館「梅の間」

出席者(敬称略、順不同)：

厚生省児童家庭局母子衛生課

松橋有子、橋爪 章

主任研究者(班長)

鈴木雅洲

幹事(分科会長)

蜂屋祥一、沼崎義夫、飯塚理八、倉智敬一

研究評価委員

沢崎千秋, 松本清一
事務担当者(班)
矢嶋聡, 古橋信晃
事務担当者(分科会)
久慈直志, 田中明, 牧野恒久, 青野敏博,
佐藤信二

議 事:

- I 主任研究者挨拶(開会) 鈴木雅洲
- II 厚生省担当官挨拶 松橋有子
- III 昭和57年度研究班の構成について 鈴木雅洲
- IV 昭和57年度研究計画について 鈴木雅洲, 蜂屋祥一, 倉智敬一, 沼崎義夫, 飯塚理八
- V 今後の班運営について 鈴木雅洲
- VI 事務連絡 古橋信晃
- VII 研究評価委員挨拶 沢崎千秋, 松本清一
- VIII 主任研究者挨拶(閉会) 鈴木雅洲

第2回幹事会ならびに評価委員会

議 事 録

日時: 昭和58年2月25日(金)
12時30分~15時
会場: 竹橋会館「梅の間」
出席者(敬称略, 順不同):

主任研究者(班長) 鈴木雅洲
幹事(分科会長) 倉智敬一, 飯塚理八, 蜂屋祥一, 沼崎義夫,
研究評価委員 松本清一, 沢崎千秋
事務担当者(班) 矢嶋 聡, 古橋信晃
事務担当者(分科会) 久慈直志, 田中 明, 牧野恒久, 青野敏博, 佐藤信二

議 事:

- I 主任研究者挨拶(開会) 鈴木雅洲
- II 昭和57年度研究班の構成について 鈴木雅洲
- III 昭和57年度研究成果について 鈴木雅洲, 蜂屋祥一, 倉智敬一, 沼崎義夫, 飯塚理八
- IV 事務連絡 古橋信晃
- V 研究評価委員挨拶 沢崎千秋, 松本清一
- VI 主任研究者挨拶(閉会) 鈴木雅洲

生活環境分科会議事録

分科会長 鈴木雅洲

第1回生活環境分科会議事録

日時: 昭和57年6月10日(木) 午前10時~午後4時
会場: 竹橋会館「朱鷺の間」

出席者(敬称略, 順不同):

東京大学: 佐藤孝道, 水野正彦
近畿大学: 瀧 勲, 野田起一郎
東洋大学: 梅山久美子
自治医科大: 玉田太朗, 松本清一
北海道大学: 菅原卓, 林宏, 鈴木重統
愛染橋病院: 西村和彦
京都府立医大: 東山秀聲, 藤本泰子
仙台日赤病院: 森 滋
国立水戸病院: 小林 昇
広島大学: 松本幸嗣
久留米大学: 柘島勝一
名古屋大学: 柵木充明
都立築地産院: 村田文也, 多田 裕
群馬県: 佐藤ち江
慶応大学: 河上征治, 秋山泰子
東京大学: 遠山博
小山市民病院: 石浜淳美
東邦大学: 月本一郎, 中山健太郎
鹿児島大学: 森 一郎, 藤野敏則
国立大蔵病院: 鈴木謙治
大阪府立母子医療センター: 竹内 徹
淀川キリスト教病院: 船戸正久
長崎大学: 辻芳郎
神奈川県立こども医療センター: 長尾大, 飯塚敦夫

静岡赤十字病院：池田稲穂

東北大学：鈴木雅洲，矢嶋 聡，古橋信晃，佐藤 章
佐藤信二，劉 雪美，山内隆治，莊 漢一
飯田敦子，宮下則子

厚生省母子衛生課：松橋有子，橋爪 章

・玉田太郎 ・石浜淳美

Ⅲ 経理事務説明

・古橋信晃

Ⅳ 厚生省母子衛生課挨拶

・松橋有子

Ⅴ 分科会長挨拶，閉会

議 事：

I 開会，分科会長挨拶

Ⅱ

(1) 現代生活環境による異常児発生の疫学的研究，代表機関の発表

- ① 肥満 ・藤本泰子
- ② 核家族 ・水野正彦
- ③ 勤労婦人 ・菅原卓
- ④ 旅行 ・松本幸嗣
- ⑤ カフェイン ・劉雪美
- ⑥ 冷房 ・柵木充明
- ⑦ 交通機関利用 ・梶島勝一
- ⑧ ビル居住 ・刈敷

(2) 妊産婦輸血・新生児交換輸血の影響

- ① 妊産婦輸血の母子に与える影響
 - ・遠山 博
- ② 交換輸血・輸血を受けた児の長期予後
 - ・村田文也
 - ・竹内 徹

(3) 妊娠期の栄養の実態と保健指導

- ・森 一郎
- ・荒木 勤
- ・西村和彦

(4) 幼若乳児にみられるビタミンK 欠乏性出血素因に関する研究

- ・月本一郎 ・長尾 大 ・駒沢 勝

(5) 在胎週数ならびに出生体重からみた早期新生児死亡率・新生児死亡率・乳児死亡率ならびにその対策に関する研究

- ・佐藤 章

(6) 21世紀において予測される家庭像と，それに影響を与えると考えられる諸要因についての研究

- ・水野正彦

(7) 思春期保健衛生

① 思春期医学のカバーすべき領域の設定に関する研究

玉田太郎

- ② 10代婦人の妊娠

第2回生活環境分科会議事録

日時：昭和58年2月10日(木) 午前10時～午後4時

会場：良陵会館大会議室

出席者(敬称略，順不同)：

東京大学：佐藤孝道

近畿大学：刈敷，野田起一郎

自治医科大学：玉田太郎，松本清一

北海道大学：菅原卓，鈴木重統，一戸喜兵衛

愛染橋病院：西村和彦

京都府立医大：東山秀聲，藤本泰子

広島大学：松本幸嗣

久留米大学：梶島勝一

名古屋大学：可世木成明

都立築地産院：村田文也

東京大学：遠山 博

小山市市民病院：石浜淳美

東邦大学：月本一郎

鹿児島大学：森 一郎

大阪府立母子医療センター：竹内徹

淀川キリスト教病院：船戸正久

国立岡山病院：駒沢 勝

神奈川県立こども医療センター：長尾 大

静岡赤十字病院：池田稲穂

群馬県：佐藤ち江

国立大蔵病院：横田 晔

東北大学：鈴木雅洲，矢嶋 聡，古橋信晃，佐藤 章
劉 雪美，佐藤信二，山内隆治，莊 漢一
飯田敦子，宮下則子

議 事：

I 開会，分科会長挨拶

Ⅱ

(1) 現代生活環境による異常児発生の疫学的研究，代表機関の発表

- ① 肥満 ・藤本泰子

- ② 核家族 ・佐藤孝道

- ㉔ 勤労婦人 ・菅原 卓
- ㉕ 旅行 ・松本幸嗣
- ㉖ カフェイン ・劉 雪美
- ㉗ 冷房 ・可世木成明
- ㉘ 交通機関利用 ・枕島勝一
- ㉙ ビル居住 ・洲 勲

(2) 21世紀において予測される家庭像と、それに影響を与えると考えられる諸要因についての研究

- ・水野正彦

(3) 妊産婦輸血・新生児交換輸血の影響

㉚ 妊産婦輸血の母子に与える影響

- ・遠山 博

㉛ 交換輸血・輸血を受けた児の長期予後

- ・村田文也
- ・船戸正久

(4) 幼若乳児にみられるビタミンK欠乏性出血素因に関する研究

- ・日本一郎・長尾 大・駒沢勝

(5) 妊娠週数ならびに出生体重からみた早期新生児死亡率・新生児死亡率・乳児死亡率ならびにその対策に関する研究

- ・鈴木雅洲・佐藤 章

(6) 思春期保健衛生

㉜ 思春期医学のカバーすべき領域の設定に関する研究

- ・玉田太郎・横田 暉

㉝ 10代婦人の妊娠 ・玉田太郎・石浜淳美

(7) 妊娠期の栄養の実態と保健指導

- ・森一郎・西村和彦

Ⅲ 経理事務証明 ・古橋信晃

Ⅳ 分科会長挨拶、閉会

厚生省心身障害研究

鈴木班・妊婦管理研究分科会 議事録

分科会長 幹事 蜂屋祥一

第一回 昭和57年7月9日 pm4:00~5:30

場所：日本教育会館 1階 特別会議室

(先天異常学会開催中)

議題

1. 本年度研究計画の概要
2. 今までの2年間の計画の達成状況
3. 経理事務その他

a. 研究費配分額の決定と推定の振込予想日

b. それに基く立替払いと口座設置の件

c. 経理計画書の提出期限

出席者

関場 香, 江口勝人(岡大婦), 飯沼博朗(信大婦), 古橋信晃, 高橋 徹(東北大婦), 浜田悌二(久留米大婦), 八神喜昭, 中谷剛彬(名市大婦), 村田和平(三重大婦), 大浦敏明(大阪市立小児保健センター), 一色 玄(阪市大, 児), 館田 拓(東北大・児), 村田光範(東女医大・児), 高木繁夫(日大婦), 蜂屋祥一, 久慈直志(慈大婦)

◎北川照男(日大・児)は同時刻先天異常学会シンポジウムのシンポジストのため欠席。内容は翌日電話にて通達。

第2回 昭和58年2月4日 pm3:00~6:00

場所：東京慈恵会医科大学 高木会館5階B会議室
議題

1. 本年度研究成果の発表
2. 研究報告書、経理事務の通達と詳細な期日
3. その他

出席者

関場 香, 江口勝人, 林 省治(岡大婦), 福田 透, 飯沼博朗(信大婦), 大和田操(日大児), 古橋信晃, 高橋 徹(東北大婦), 大浦敏明(大阪市立小児保健センター)館田 拓(東北大児), 村田光範, 澤田和子, 松本 勝(東女医大児), 杉山陽一, 村田和平(三重大婦), 八神喜昭, 中谷剛彬(名市大婦), 浜田悌二(久留米大婦), 高木繁夫, 津端捷夫, 坂田寿衛(日大婦), 蜂屋祥一, 久慈直志(慈大婦)

◎北川照男(日大児)は、同日厚生省難病班の班会議で報告する為、欠席。大和田操(日大児)が代理で出席。多田啓也(東北大児)は同日ビタミン委員会シンポジウムで大阪の為欠席。

館田 拓(東北大児)が代理で出席。

多胎分科会議事録

分科会長 倉智敬一(大阪大学医学部産婦人科)

多胎妊娠分科会：昭和57年度第1回研究会

分科会長名：倉智敬一

日時：昭和57年7月5日

場所：鉄道会館ルビーホール(東京都)

出席者：倉智敬一，青野敏博，木下勝之，五十嵐正雄，
八木重尾，西 望，一宮和夫，今村定臣，
馬場一雄，藤井 裕，鈴木雅洲，古橋信晃

議事録

まず倉智分科会長よりこれまでの研究の歩みに関する整理があり，本年度活動方針につき討議の要請があった。それを受けて各大学より以下の計画説明が行なわれた。大阪大学よりは，これまで行ってきたHMG—HCG治療中の血中 estradiol と超音波検査によるモニターを引き続き行なう一方，阪大が中心になって行った各種排卵誘発剤による多胎率，流産率，奇形率の全国集計，及び阪大で分娩した要胎の妊娠経過，分娩，新生児発育に関する研究を行なう旨の説明があった。東大からはHMG—HCG治療中においてHCG注射法の工夫 estradiol 以外のホルモン動態の研究，多胎妊娠中の管理特にリトドリンの効果と副作用に関する研究を行なう旨の説明があった。群馬大からは血中 estradiol の迅速定量法の検討，頸管粘液と estradiol の time lag，HMG—HCG治療前の estradiol benzoate の primary 効果，HMG の精製に関する研究を行なう旨の説明があった。和医大よりゴナドトロピンによる卵胞発育には内因性 estradiol が必要と考え estrogen レセプターの局在，FSH レセプターの局在についての研究を行なう旨の説明があった。東京医歯大よりHMG—HCG治療中における尿中 estrogen 及び超音波検査によるモニター，HMG—HCG投与スケジュールの変更，LH—RHアナログに関する研究を行なう旨の説明があった。長崎大より同じく尿中 estrogen によるモニター，HMG投与法の改良による超音波検査による卵胞発育状況の差についての研究を行なう旨の説明があった。日本大学からは，「山下家の5つ子」の発育記録のまとめとそれ以後分娩した超双胎に関する研究を報告する旨の説明があった。事務局の東北大学より報告書および会計に関する説明がなされ，鈴木班長の挨拶があり，次回昭和58年2月に第2回の研究会を開き進行状況をまとめることを約して散会した。

多胎妊娠分科会：昭和57年度第2回研究会

分科会長：倉智敬一

日時：昭和58年2月4日

場所：新阪急ビルスカイルーム(大阪市)

出席者

倉智敬一，青野敏博，田坂慶一，木下勝之，五十嵐正雄，
仲野良介，八木重尾，島 和生，斎藤 幹，西 望，
山辺 徹，今村定臣，中野竜夫，赤松 洋，藤井 裕，
佐藤信二

議事録

倉智分科会長よりの挨拶があり以下の順序にて各大学より10分間の研究発表があり活発な討論がなされた。

和医大からは卵巣の顆粒膜細胞にエストロゲンレセプターの存在を証明し，FSHとともに内因性エストロゲンが卵胞発育においてある役割を演じている旨の報告があった。さらに長崎大からHMG投与法を連日投与より隔日投与にすることよりOHSSの頻度を減少させることができるが，しかし隔日投与の方が日数がかかり排卵率の低下が認められ改善の余地がある旨の報告があった。東京医歯大からはLH—RHをHCG注射前に皮下注射することにより排卵抑制することができる。さらに尿中E₂を迅速定量して一定レベル以上でHMGを中止後排卵させることにより，OHSS防止の可能性を示唆する報告がなされた。群馬大よりHMG—HCG療法の際に estradiol benzoate を前投与すること及びHMGの精製によりFSH rich のフラクションを用いると多胎妊娠減少の可能性のある旨報告があった。東大からは超音波卵胞観察でも現在の投与法では複数の卵胞発育を防止することはできない旨報告があった。阪大より各種排卵誘発剤による妊娠の調査ではHMG—HCGに多胎率が高く，流産率も高いが，奇形率は自然排卵と差がない旨の発表があった。日赤医療センターより5胎妊娠分娩経過の報告があり，日大より5胎の発育状況の報告があった。東北大より事務連絡があり散会した。

分科会議事録

第4分科会「母体感染症の胎児に与える影響とその対策，および臨床検査法の開発」

分科会長：沼崎 義夫(国立仙台病院)

昭和57年度

第1回分科会

日時：昭和57年6月11日，午後1～4時

場所：東京、厚生省第二共済組合宿泊所 茜荘、会議室

出席者：

沼崎義夫(分科会長, 班員), 吉野亀三郎(班員, 山梨県公害衛生研究所), 川名 尚(研究協力者, 東大産婦人科), 亀井喜世子(研究協力者, 帝京大寄生虫), 千葉峻三(研究協力者, 中尾 亨, 代理, 札幌医大小児科), 土橋賢治(班員, 松本慶蔵, 代理長崎大熱帯医研内科), 佐藤信二(分科会事務連絡係, 東北大, 産婦人科), 田中 明(事務担当, 国立仙台病院)

議事

1. 昭和56年度研究報告

当初の研究計画に基づき, トキソプラズマ(班員, 松本慶蔵, 協力者, 亀井喜世子, 担当), サイトメガロウイルス(班員, 沼崎義夫, 協力者, 中尾亨), ヘルペスウイルス(班員, 吉野亀三郎, 協力者, 川名尚)の各研究の進捗状況を報告し相互討論を行った。

トキソプラズマについては現行のILA法では非特異反応がおこること, 将来ELISA法の活用が検討されるべきであることが討論された。

サイトメガロウイルスについては, 妊婦に抗体測定法が確立され, サブユニットワクチンの試作と動物接種が試みられ, 臨床的には性器ヘルペス症での子宮内感染は起らなかったこと, 性器ヘルペス症の分娩に対する帝切の適応が確立された事が報告された。

サイトメガロウイルスについては, IgG—EA および IgM—MA 検査法が確立されたこと, CMVの妊婦における細胞性免疫の低下が再活性化をもたらすこと, 不顕性子宮内感染が0.5%にみられること, 妊婦の不顕性初感染が0.1~0.3%の頻度でおこる事が判ったこと, 不顕性子宮内感染は抗体陽性妊婦でおこること, 新生児輸血による本ウイルス感染症例が報告され, この事は臨床的に直ちに適応されるべきであると討論された。

トキソプラズマについては現行の検査法では色素試験が最も信頼できること, 普及しているIHA, ILA法がIgM抗体の検出に適さない事が明らかになり, 安易に用いてはならない事が討論された。

2. 事務連絡

班分科会事務担当, 佐藤信二氏より, 総括研究報告, 総会発表, 事業実績報告書等について連絡説明があった。

昭和57年度

第2回分科会

日時：昭和58年2月23日, 午後1~4時

場所：東京, 厚生省第二共済組合宿泊所 茜荘, 会議室

出席者：

沼崎義夫(分科会長, 班員), 吉野亀三郎(班員, 山梨県公害衛生研究所), 松本慶蔵(班員, 長大熱帯研内科), 千葉峻三(研究協力者, 中尾亨, 札大小児科, 代理), 川名 尚(研究協力者, 東大産婦人科), 亀井喜世子(研究協力者, 帝京大寄生虫), 田中 明(事務担当, 国立仙台病院), 佐藤信二(事務担当, 東北大産婦人科)

他, 三木, 渡辺(山梨県公衛研), 鈴木, 土橋, 宮崎(長大, 熱帯医研内科)が臨時参加した。

議事

1. 三年間の研究総括報告

各班員および研究者より昭和55年度以来三年間における総括報告が, 各分担課題にもとづいてなされ, 班員は総会において成果を報告することになった。

サイトメガロウイルスについては, 簡便な分離における再活性化は細胞性免疫の抑制が主体であること, 不顕性子宮内感染が0.5%の頻度でみられること, 新生児輸血による感染症例の報告であった。

ヘルペスウイルスについては, 簡便な分離同定, 抗体測定法が確立されたこと, 帝切の適応について範囲が確立されたことの報告があった。

2. 昭和57年度研究計画

各担当主題について更に研究をすすめる事になった。また次回分科会までに研究の総括報告を予定することにした。

3. 事務連絡

事務担当者より本年度計画, 研究報告, 経理報告についての連絡および説明があった。

以上

以上

厚生省心身障害妊婦管理研究班
不妊分科会の議事録

不妊分科会 会長
飯塚 理八

昭和57年度不妊分科会
第1回 分科会議事録

分科会長 飯塚理八

日時：昭和57年7月9日(金), pm2:00~5:00

場所：ルーテル市ヶ谷センター

出席者名簿：

飯塚分科会長, 橋爪厚生省技官, 沢崎, 森山, 松本各
評価委員, 和久, 大野, 森各班員, 星, 山口, 星合研
究協力者, 森, 長池, 斉藤, 桃野, 古橋(東北大), 石
田(帝京大), 福家(徳島大), 椎名(東歯大), 高橋(太
田病院), 小林, 河上, 牧野, 中沢, 萩庭, 谷本, 大塚,
鈴木, 未包, 林(慶大),

敬称略, 順不同 計30名

議事録：

会は飯塚分科会長の挨拶に始まり, まず東北大古橋
より本年度の事務連絡として, 研究報告書の作成, 研
究費の処理について打ち合わせがあった。次いで次回
第2回分科会の日時を昭和58年2月17日とすることとし
た。

分科会は続いて各班員, 研究協力者から本年度の研
究計画の説明に移り, 一巡したところで沢崎, 森山,
松本の各評価委員より, 各班の研究目的に対し, 要望
をいただいた。

最後に厚生省橋爪技官より不妊分科会の本年度の研究
についての期待が述べられたあと閉会した。

昭和57年度不妊分科会

第2回 分科会議事録
分科会長 飯塚理八

日時：昭和58年2月17日(木), 2:00~5:00pm

場所：ルーテル市ヶ谷センター

出席者名簿：

飯塚分科会長, 鈴木班長

沢崎, 森山評価委員

和久, 大野, 森各班員

星, 星合, 山口各研究協力者

斉藤, 京野, 対木, 森, 古橋(東北大)

野田(徳島大), 松下(徳島大), 椎名(東歯大), 高橋(太
田病院), 小林, 河上, 牧野, 和泉, 関, 谷本, 高橋,
大塚, 鈴木, 未包, 林(慶大)

敬称略, 順不同 計30名

議事録：

不妊分科会の第2回会議は, 飯塚分科会長, 鈴木班
長の挨拶に始まり, 次いで本年度の研究成果が飯塚,
星合, 和久, 星の順で報告され, 討論が行われた。会
は中間で, 東北大古橋より事務連絡がなされ, 研究報
告書, 事務処理の打ち合わせが行われた。小休止のあ
と, 森, 大野, 山口の順で再び本年度の研究成果が報
告された。

続いて講評に移り, 森山, 沢崎各評価委員から不妊
分科会の三年にわたる研究成果について評価が成さ
れ, 今後も引き続いて本領域の研究の継続が要望され,
閉会した。